

## 第 16 章 確認問題 解答と解説

問 1、療養指導を行う際、指導効果を上げるためにどのような関わりをするとよいでしょうか？3 つ記載して下さい

- ・ 個々の患者の理解度や生活・社会背景に合わせて、平易に正確に説明する  
(身近なものに例えて説明する、患者の興味や関心のあることから話す、具体的な対処方法を考えるなども可)
- ・ 健康に対する価値観、身体や認知、心理社会的発達、これまでの学習経験などから、学習に関するレディネスをアセスメントする
- ・ 指導を受けやすい、実践しやすい環境作り
- ・ 個別の事情になるべく合わせた指導内容を工夫する (無理なく継続できる具体的方法を考えるなども可)
- ・ 患者個々の学習ペースを尊重する (患者の感情や認識、学習レディネスなどを常に評価し、柔軟に指導計画を修正するなど)
- ・ 患者ができていくことにも焦点をあて、ほめる、認める

問 2、糖尿病療養指導の中で、どのような目標を設定するとよいか 2 つ記載して下さい

- ・ 目標のレベルが現実的である
- ・ 具体的で理解しやすい目標にする

問 3、集団指導と個別指導の利点と欠点をそれぞれ 2 つずつ記載して下さい

	集団指導	個別指導
利点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者同士での意見交換や経験を話すことで、仲間意識が生まれたり、患者間での相互作用が期待できる</li><li>・ 人手や時間を節約できる</li><li>・ 効率よく、系統的に指導することができる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者個々の理解度やライフスタイル、反応に応じて指導できる</li><li>・ 患者と医療者との相互作用を重視したかわり取りやすい</li><li>・ 指導内容を記録しておくことで、個々の患者の状況に適して継続的な指導ができる</li></ul>
欠点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一方的な関わりになりやすい</li><li>・ 患者個々の状況に合わせた指導はしづらい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人手や時間がかかる</li><li>・ 患者同士のつながりを作る場にはならない</li></ul>